環境経営レポート

2023 年度（運用期間：2023 年４月 ～ 2024 年３月）

2024 年６月２５日

株式会社 エフ・ケイ・ケイ

目　　次

１．環境経営方針 …… 1

２．事業の概要 …… 2

３．組織図及び認証・登録範囲 …… 3

４．環境経営目標 …… 4

５．環境経営計画 …… 5

６．環境負荷の実績と自己チェックの結果 …… 8

７．環境経営計画の取組み結果とその評価と今後の取組み　9

８．環境関連法規への違反、訴訟等の有無 …… 15

９．代表者による全体評価と見直し・指示の結果 …… 15

１．環境経営方針

経営理念

私たちは地球環境に配慮し、廃棄物の収集運搬を通じて衛生的で快適な街づくりに貢献します。

環境理念

株式会社エフ・ケイ・ケイは、廃棄物および資源物の収集・運搬事業を行っています。私たちは、これらの事業にかかわる環境問題について上記の経営理念に基づき、下記の環境方針を定め、環境活動を積極的に推進し持続可能な社会並びに SDGs の実現に努めます。

環境方針

１．　事業活動の実態を踏まえ、　当社は以下の環境負荷の軽減に重点的に取組みます

①　二酸化炭素排出量の削減に努めます
②　廃棄物の減量化に努めます
③　水使用量の削減に努めます
④　グリーン購入の推進に努めます
⑤　環境にやさしい車両の導入に努めます

２．　環境保全活動の推進に努めます

①　エコアクション２１活動を積極的に推進します
②　環境活動レポートを作成・公表します

３．事業に関わる環境関連の法律等を遵守します

４．環境経営の取組みを定期的に評価し、見直し結果に基づき継続的改善を図っていきます

５．全社員に環境方針の周知を図り、環境経営の実効性の向上に努めます

制定日　2006 年 11 月 1 日
改定日　2022 年 4 月 1 日
株式会社　エフ・ケイ・ケイ
代表取締役　清水　映

２．事業の概要

（１）事業所名及び代表者氏名
株式会社エフ・ケイ・ケイ
代表取締役　清 水　 映

（２）所在地
〒819-0375　福岡県福岡市西区大字徳永 747-1

（３）環境管理責任者、担当者及び連絡先
統括部長　　中村　慎吾
連 絡 先　　TEL：092-807-4848　FAX：092-807-4855
E-mail:fkk_tokunaga@ec1.technowave.ne.jp

（４）事業の内容
一般家庭ごみ及び資源物の収集運搬業務

（５）委託の内容
委託の番号　　委託 第５５号 （福岡市）
委託の期間　　2023 年 4 月 1 日から
2024 年 3 月 31 日まで

（６）事業の規模
設立年月日　　1993 年 9 月 13 日
資本金　　3,000 万円

	単位	2021 年度 (2021.4～2022.3)	2022 年度 (2022.4～2023.3)	2023 年度 (2023.4～2024.3)
従　業　員	人	４７	４８	４８
床　面　積	㎡	４６９	４６９	４６９
収集運搬量	t	６，３９２	６，０６８	５，９３４

（７）施設等の状況

運搬車両の種類と台数

３ｔパッカー車	６台
２ｔパッカー車	２台
２ｔ平ボディ（リフト付）	２台（ハイブリッド車）
２ｔクレーン付きトラック	４台
軽トラック	１台
軽バン	１台

3tパッカー車：6台

2tパッカー車：2台

2t平ボディ車：2台

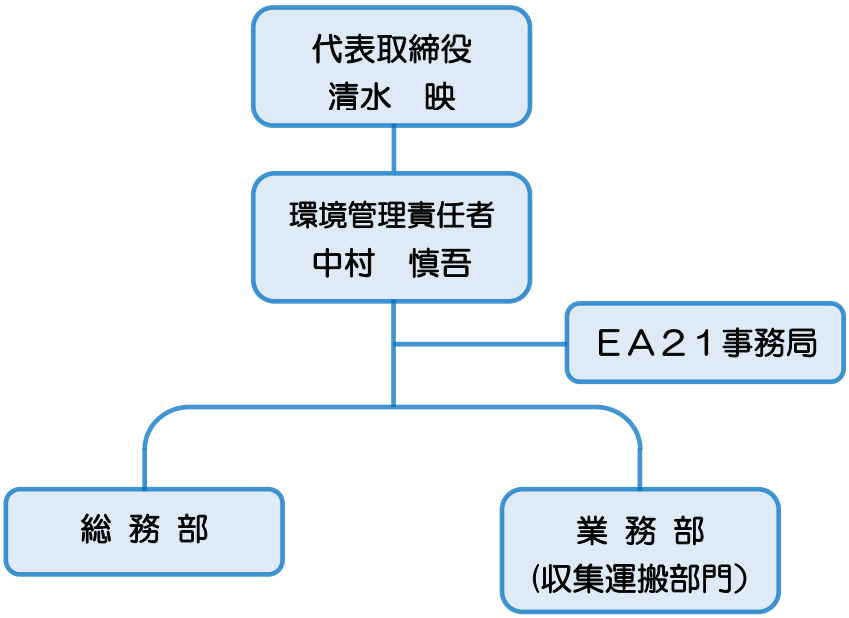
2tクレーン付きトラック：4台

軽トラック：1台

軽バン：1台

３．組織図及び認証・登録範囲

※全部門、全活動を対象範囲とする。



4．環境経営目標

2021 年度から向こう 3 年間の環境目標（2021 年度～2023 年度）は二酸化炭素排出量、廃棄物排出量、及び総排水量(給水量)を過去 3 年間（2018 年度～2020 年度）の平均値以下とする。

環 境 目 標	単位	基準年（2018～2020 年度の平均値）	2021 年度（2021 年 4 月～2022 年 3 月）	2022 年度（2022 年 4 月～2023 年 3 月）	2023 年度（2023 年 4 月～2024 年 3 月）
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO_2／千km	592（189,065kg-CO_2）	592以下	592以下	592以下
・電気使用量	kWh／年	37,336	37,336 以下	37,336 以下	37,336 以下
・灯油	ℓ／年	512	512以下	512以下	512以下
・ガソリン	kg-CO_2／千 km	211（2,395L）	211以下	211以下	211以下
・軽油	kg-CO_2／千 km	575（65,278L）	575以下	575以下	575以下
廃棄物排出量(一般廃棄物)の削減	ton／年	1．468	1．468以下	1．468以下	1．468以下
総排水量(給水量)の削減	㎥／年	744	744以下	744以下	744以下
・上水	㎥／年	529	529以下	529以下	529以下
・地下水	㎥／年	215	215以下	215以下	215以下
グリーン購入の推進	%	94	94%以上	94%以上	94%以上
収集運搬における環境配慮に関する目標	車両買換えの際は環境性能を重視して選定を行う				

※電力の排出係数は九州電力の CO_2 排出係数【調整後】（2019 年度実績：0.371kg-CO_2／kWh）を用いる。
※総廃棄物排出量に含まれる産業廃棄物に関してはグリーストラップの定期清掃によるもので、定期的に一定の量となる為、削減目標は定めていない。
※グリーン購入の目標値は調達品のグリーン購入の割合を示す。
※基準年の()内はそれぞれ二酸化炭素排出量、ガソリン消費量、軽油消費量の値を示す。
※基準年における車両走行距離はガソリン：26,314 km、軽油：292,794 km、合計：319,108km

５．環境経営計画

（１）二酸化炭素排出量の削減のための取組み

１）電気使用量の削減

①エアコンの設定温度を決め、実行する

・エアコンの設定温度を暖房 22℃以下、冷房を 26℃以上に設定する

・温度設定は担当の責任者以外は行わない

②照明の適正化、スイッチの適正管理をおこなう

・昼休みの消灯の実施、また、パソコン等も使用しない時は、こまめに電源を落とす

・更衣室、車庫、階段、トイレ等は人がいない時の照明、エアコン等の消し忘れの防止を徹底する

２）ガソリン、軽油使用量の削減

①運転方法の適正化、省エネ運転の手順を決め実行する

・急発進、急停車、無駄なアイドリングをしない

・エンジン回転数を上げ過ぎないよう、タコメーターに目印をつけ、省エネ運転を実施する

３）灯油使用量の削減

①適正な温度管理、スイッチの適正管理を行う

・暑くなりすぎないように適正な温度管理を行い、こまめにスイッチを切る

（２）廃棄物排出量の削減のための取組み

１）紙使用量の削減

①コピー用紙の両面使用を徹底する

・シュレッダーの使用は個人情報等が記載されているものに限定する

２）分別、リサイクルの徹底

①廃棄物の分別を徹底する

・廃棄物の分別を徹底し、廃棄物減量を心掛ける

②段ボール、新聞紙等のリサイクル

・段ボール、新聞紙等は保管場所を決め、リサイクルにまわす

（３）総排水量（給水量）の削減のための取組み

１）節水活動の推進

①洗車時における節水活動

・洗車の際はこまめに水を止め、節水を心掛ける

・毎月の地下水の使用量を公表する

（４）グリーン購入の推進

１）備品等購入の際のグリーン購入の推進

・コピー用紙やその他備品等の調達の際は環境に配慮した商品を優先的に購入する

・備品等購入の際はグリーン購入の実績について記録する

（5）その他の取組み事項

1）リサイクル部門で収集に使用するビニール袋使用量の削減

・収集に使用するビニール袋は出来るだけ再使用し、使用量を削減する

2）環境掲示板の設置

・各取組の責任者や毎月のエネルギー消費量（車両ごとの燃費、電気、水道等の消費量等)、環境関連の情報等を掲示し社員全員が情報を共有できるように環境掲示板を設置する

3）社内研修会の実施

・環境問題への認識を深め、環境活動に対しての意識向上を図るため定期的に環境問題をテーマにした社内研修会を実施する

4）収集運搬における環境配慮に関する目標

・車両買換えの際は環境性能を重視して選定を行う

◆EA21 環境掲示板の設置◆

毎月の燃料、電気、水道等の消費量の実績や環境関連の情報を掲示し、社員全員で情報を共有できるように努めています。

◆社内研修会の実施◆

環境問題をテーマにした社内研修会を定期的に開催し、社員の環境活動に対しての意識向上に努めています。

◆分別、リサイクルの徹底◆

ごみの分別を徹底し、新聞、ダンボール等は保管場所を設けて資源物のリサイクルを心掛けています。

◆役割分担と責任の明確化◆

エアコンの設定温度、照明等の適正管理は責任者を決めて役割分担と責任の明確化を図っています。

◆環境性能を重視した車両の選定◆

車両の買い替え等の際は環境性能を重視して車両の選定を行い、低公害車両の比率向上に努めています。

2t 平ボディトラック(ハイブリッド車)

◆社内会議のペーパーレス化◆

社内会議等の際は出来るだけペーパーレス化を行い、紙の使用抑制と廃棄物の抑制に努めています。

◆太陽光による発電◆

社屋の屋根に太陽光発電パネルを設置し、再生可能エネルギーである太陽光により発電した電力を電力会社に売電し自然エネルギーの普及と CO_2 削減に取組んでいます。

★2023 年度太陽光発電の発電量：14,878kWh（当社の年間消費電力の約 42%にあたります）
発電量の 14,878kWh を二酸化炭素排出量に換算すると 5,519 kg-CO_2 を削減できた事になります。
※電力の排出係数は九州電力の CO_2 排出係数【調整後】（2019 年度実績：0.371kg-CO_2／kWh）を用いる。

◆環境美化活動◆

地域の環境美化活動として会社周辺の除草作業等の活動を定期的に行っています。

◆一人一花運動◆

福岡市が進める“一人一花運動”に賛同し、スポンサー花壇の協賛企業として都市部の花によるまちづくりに参加しています。

6．環境負荷の実績と自己チェックの結果

2023 年度の環境負荷の詳細は下記の通りです。

1）二酸化炭素排出量

項　　目	単　位	使用量	二酸化炭素排出量	
			Kg-CO_2	比率(%)
購入電力	kWh	35，304	13，098	6．6
灯油	L	158	393	0．2
ガソリン	L	2，317	5，376	2．7
軽油	L	69，956	180，488	90．5
合　　計			199，355	100．0

二酸化炭素排出量の要因は、車両の燃料（ガソリン、軽油）の消費によるものが約９３％と大半を占めている。尚、燃料種別ごとの走行距離は、ガソリン:26,998 ㎞、軽油:299,079 ㎞であった。

2）廃棄物排出量

項　　目		排出量(トン)	比　率(%)
一般廃棄物（ｔ）	循環資源量	0．207	3．07
	可燃性ごみ	0．977	14．50
	不燃性ごみ	0．054	0．80
産業廃棄物（ｔ）		5．50	81．63
合　　計		6．738	100

当社から排出される廃棄物は主に一般廃棄物、産業廃棄物に分けられますが、このうち産業廃棄物については、場内の洗車場に設置してあるグリーストラップの定期清掃によるものです。また、一般廃棄物の内訳については事務所で使用するコピー用紙等の紙類及び昼食の弁当等のごみが中心です。循環資源量は、新聞紙やダンボール類等でリサイクルにまわし、廃棄物の削減に努めている。

3）総排水量（給水量）

項　　目		使用量(㎥)	比　率(%)
水資源投入量	上水	550	69．66
	地下水	239．5	30．34
合　　計		789．5	100

当社の水使用量の内訳は、上水は主に屋内（事務所等）での使用、地下水は主に屋外（散水、洗車等）での使用である。

4）グリーン購入

項　　目	割合(%)
グリーン購入	89

当社のグリーン購入の割合は、主に事務所で使用する事務用品等の備品を調達する際のグリーン購入の割合（金額ベース）を記録し、グリーン購入の促進に努めている。

７．環境経営計画の取組み結果とその評価と今後の取組み

エコアクション２１を運用した 2023 年度（2023 年 4 月～2024 年 3 月）における環境目標に対する実績はつぎの通りであった。

項　　目	単　位	2023 年度の目標	2023 年度の実績	目標達成の判定
二酸化炭素排出量	kg-CO_2／千 km	592 以下	611	×
【CO_2排出量】	kg-CO_2	—	199,355	
【走行距離】	km	—	326,077	
・電気使用量	kWh／年	37,336 以下	35,304	○
・灯油	ℓ／年	512 以下	158	○
・ガソリン	kg-CO_2／千 km	211 以下	199	○
【CO_2排出量】	kg-CO_2	—	5,376	
【走行距離】	km	—	26998	
・軽油	kg-CO_2／千 km	575 以下	603	×
【CO_2排出量 】	kg-CO_2	—	180,487	
【走行距離】	km	—	299,079	
廃棄物排出量の削減 ・一般廃棄物	t／年	1.468 以下	1.238	○
総排水量の削減	㎥／年	744 以下	789	×
・上水	㎥／年	529 以下	550	×
・地下水	㎥／年	215 以下	239	×
グリーン購入	%	94%以上	89%	×

※　電力の排出係数は九州電力の CO_2 排出係数【調整後】（2019 年度実績：0.371kg-CO_2／kWh）を用いる。
※　グリーン購入の目標値及び実績値は備品等購入品の金額ベースでの割合とする。
※　総廃棄物排出量に含まれる産業廃棄物に関してはグリーストラップの定期清掃によるもので、定期的に一定の量となる為、削減目標は定めていない。

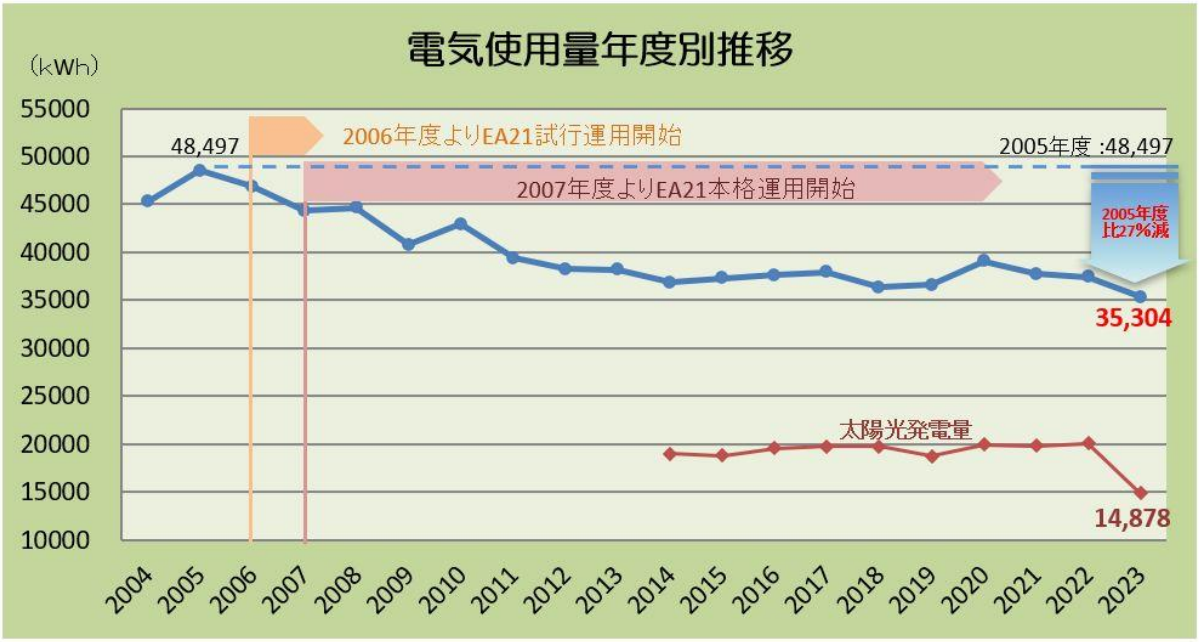
（１）二酸化炭素排出量の削減

2023 年度における二酸化炭素排出量（走行距離当たり）の削減目標は、過去 3 年間（2018 年度～2020 年度）の実績の平均値以下（592kg-CO_2／千ｋｍ以下）とすることを目標とし、これに対し 2023 年度の実績は 611kg-CO_2／千ｋｍで目標は達成できませんでした。二酸化炭素排出量（総量）、二酸化炭素排出量（走行距離当たり）のエコアクション２１の環境活動に取り組みを開始する前からの年度別の推移は以下のグラフのようになりました。

※電力の排出係数は九州電力の CO_2 排出係数（2016 年度実績：0.483kg-CO_2／kWh）を用いる。

二酸化炭素排出量の総量の実績値を過去の年度と比較する為、電力の排出係数を 2016 年度実績(0.483kg-CO2／kWh)で揃えると、2023 年度の二酸化炭素排出量の総量は 203,309 kg-CO_2 となり、エコアクション２１の試行運用を開始した 2006 年度と比較すると約 8.7%増加しました。増加の要因としては、当社の二酸化炭素排出量の約９３％は車両の燃料等の化石燃料の消費により排出されている為、収集量の増加や車両の増車に伴い、車両の総走行距離が増加傾向にあることや、近年では労働環境改善等の理由で MT 車から AT 車への買い替えを進めていることによる車両の燃費の悪化が考えられます。今後も可能な限り省エネ運転による燃費の向上や、環境性能を重視した車両の選定等の取組みを継続し、走行距離当たりの二酸化炭素排出量の削減に努めていく必要があります。

また電気使用量と太陽光発電量の年度別の推移は以下のグラフのようになりました。



エコアクション２１の環境活動の取組みを開始する前の 2005 年度の電気使用量 48,497kWh と比較すると 2023 度の実績は 35,304kWh となっており、取組み前に比べて約 27%削減することができました。これは昼休みの消灯、エアコンの設定温度や照明器具等の電源の適正管理を実施した成果がでたものと考えます。また、電気使用量の大半はエアコンの稼働によるもので季節や天候等がエアコンの稼働率にも影響すると思われますが、2013 年 12 月に社屋の屋根に設置した太陽光パネルが夏場の直射日光を遮り室内温度を下げることでエアコンの稼働率を下げる効果があったことや、屋内外の照明をほぼ全て LED に交換した効果がでているのではないかと考えています。

今後も定期的に環境活動に関する社内ミーティング等を実施し、省エネ運転の方法や効率の良い作業方法を話し合うなどして社員の意識向上を図る必要があると考えます。

（２）廃棄物排出量の削減

2023 年度における廃棄物排出量の削減目標は、過去 3 年間(2018 年度～2020 年度)の実績の平均値以下(1.468ton／年以下)とすることを目標とし、これに対し 2023 年度の実績は 1.238ton／年で目標は達成できました。

廃棄物排出量の内訳では産業廃棄物が約８２%を占めていますが、これは洗車場のグリーストラップから排出されるもので、年に４回定期的に全量汲み取りによる清掃を行っている為、排出量はグリーストラップの容積で固定されることから削減目標は定めていません。残りの約１８%は主に事務所等から排出される一般廃棄物、社内の草木剪定ごみ等で、2015 年度から目標値を定めて削減に取組んでいます。取組みを開始する前の 2012 年度の実績値（2.006ton／年）に比べ、2023 年度の実績値は 1.238ton／年で約３８%削減することができました。これは草木剪定ごみ等の処理方法や、コピー用紙の両面使用の徹底、マイ箸や水筒の持参等の取組みを徹底するなど、廃棄物削減の取組みが一定の成果を上げているもので、今後も取組みを継続していく必要があります。

（３）総排水量（給水量）の削減

2023 年度における総排水量(給水量)の削減目標は、2018 年度から 2020 年度の過去３年間の実績値の平均値以下（744 ㎥／年以下）とすることを目標とし、これに対し 2023 年度の実績は 789.50 ㎥／年で目標は達成できませんでした。また、総排水量のエコアクション２１の環境活動に取り組む前からの年度別の推移は以下のグラフのようになりました。

2023 年度の総排水量の実績をエコアクション２１の環境活動の取組みを開始する前の 2005 年度の総排水量 1,029.00 ㎥と比較すると約２３％削減することができました。2023 年度の給水量の内訳では上水が約７０％で主に事務所で使用するもので、残りの約３０％は地下水で屋外での洗車、散水等に使用しています。近年、総排水量は増加傾向にある為、今後も洗車及び散水の回数や、洗車の際は水圧を下げ、こまめに水を止めるなどの洗車方法の改善、散水栓の点検等の節水活動を継続していくと同時に、雨水の有効利用等についても検討していく必要があると考えます。

（4）グリーン購入の推進

グリーン購入の推進については、事務用品等のグリーン購入の割合（金額ベース）が 2018 年度から 2020 年度の過去 3 年間の実績値の平均値以上（９４％以上）とすることを目標とし、2023 年度の実績は８９％で目標を達成することができませんでした。

グリーン購入の推進の取り組みは 2011 年度から開始し、取組みに関する従業員への周知、備品購入の際のデータ収集等の活動を実施してきました。今後も引き続き再生品等を優先的に購入するなどの取組みを実施していきたいと思います。

次年度以降の環境経営目標ついては、過去 3 年間（2021～2023 年度）の実績の平均値から毎年１％ずつ削減する。また環境経営計画については以下の計画を継続的に実施していきます。

環 境 目 標	単位	基準年（2021～2023 年度の平均値）	2024 年度（2024 年 4 月～2025 年 3 月）	2025 年度（2025 年 4 月～2026 年 3 月）	2026 年度（2026 年 4 月～2027 年 3 月）
二酸化炭素排出量の削減	kg-CO_2／千km	613（199,116kg-CO_2）	606以下	600以下	594以下
・電気使用量	kWh／年	36,827	36,458 以下	36,090 以下	35,722 以下
・灯油	ℓ／年	323	319以下	316以下	313以下
・ガソリン	kg-CO_2／千 km	198（2,239L）	196以下	194以下	192以下
・軽油	kg-CO_2／千 km	600（69,556L）	594以下	588以下	582以下
廃棄物排出量（一般廃棄物）の削減	ton／年	1．229	1．216以下	1．204以下	1．192以下
総排水量（給水量）の削減	㎥／年	787	779以下	771以下	763以下
・上水	㎥／年	522	516以下	511以下	506以下
・地下水	㎥／年	265	262以下	259以下	257以下
グリーン購入の推進	%	90	91%以上	92%以上	93%以上
収集運搬における環境配慮に関する目標	車両買換えの際は環境性能を重視して選定を行う				

※電力の排出係数は九州電力の CO_2 排出係数【調整後】（2019 年度実績：0.371kg-CO_2／kWh）を用いる。
※総廃棄物排出量に含まれる産業廃棄物に関してはグリーストラップの定期清掃によるもので、定期的に一定の量となる為、削減目標は定めていない。
※グリーン購入の目標値は調達品のグリーン購入の割合を示す。
※基準年の()内はそれぞれ二酸化炭素排出量、ガソリン消費量、軽油消費量の値を示す。
※基準年における車両走行距離はガソリン：26,167 km、軽油：298,907 km、合計：325,074km

環境経営計画

1．二酸化炭素排出量の削減		関連するSDGs
①電気使用量の削減		
★エアコン設定温度を決め、実行する		
活動内容	・エアコン設定温度を暖房の温度を２２℃以下、冷房の温度を２６℃以上に設定する	
	・温度設定は担当の責任者以外は行わない	
＜照明の適正化、スイッチの適正管理を行う＞		
活動内容	・昼休みの消灯の実施、また、パソコン等も使用しない時はこまめに電源を落とす	
	・研修室、更衣室、車庫、階段・廊下、トイレ等は外出時、人がいない時の照明、エアコン等の消し忘れの防止	
★電気製品等の買換えの際は省エネ商品を優先して購入する		
活動内容	・社内で使用するOA機器、電気製品等の買換えの際は、環境性能を重視した機種の選定を行う	
②ガソリン・軽油使用量の削減		
★運転方法の適正化、省エネ運転の手順を決め実行する		
活動内容	・急発進、急停止をしない	
	・停車中は基本的にエンジンを切る（アイドリングストップ）	
	・エンジンの回転数を上げ過ぎない、タコメーターのグリーンの部分に赤テープを貼り回転数を上げ過ぎないようにし、省エネ運転を心掛ける	
	・毎月、燃費等のデータを公表する	
③灯油使用量の削減		
★適正な温度管理、スイッチの管理を行う		
活動内容	・暑くなり過ぎないように適正な温度管理を行い、スイッチはこまめに消すように心掛ける	
2．廃棄物排出量の削減		
①紙使用量の削減		
★コピー用紙の両面使用を徹底		
活動内容	・使用し終わったコピー用紙は保管場所を決め保管し、裏面も使用する	
	・シュレッダーにかける物は個人情報等が記載されているものに限定する	
②分別、リサイクルの徹底		
★廃棄物の分別の徹底		
活動内容	・空き缶、びん、ペットボトル、不燃物、可燃物の分別を徹底し、廃棄物の減量を心掛ける	
	・可燃物でリサイクル出来るもの（ダンボール、新聞紙等）は捨てずにリサイクルにまわす	
★ダンボール、新聞紙等のリサイクル		
活動内容	・ダンボール、新聞紙は保管場所を決め、リサイクルにまわす	
③一般廃棄物排出量の削減		
★一般廃棄物排出量削減のための活動の推進		
活動内容	・毎月の一般廃棄物排出量を公表する	
	・水筒、マイ箸の持参など、ゴミを出さないように心掛ける	
3．総排水量(給水量）の削減		
★洗車時における節水活動		
活動内容	・洗車の際はこまめに水道を止める	
	・毎月の地下水使用量を公表する	
4．グリーン購入の推進		
★備品等購入の際のグリーン購入の推進		
活動内容	・コピー用紙やその他備品等の調達の際は環境に配慮した商品（再生品等）を優先的に購入する	
5．収集運搬における環境配慮に関する目標		
★低公害車両の比率向上		
活動内容	・低公害車両（天然ガス車、ハイブリッド車等）の導入が業務上、可能かどうか検討を行い、可能な限り環境性能を重視した車両の選定を行う	

８．環境関連法規への違反、訴訟等の有無

（１）適用となる主な関連法規

	主な適用法規	該当する活動	遵守状況
1	廃棄物の処理及び清掃に関する法律	一般廃棄物の収集運搬 一般廃棄物の処理 産業廃棄物の処理	○ ○ ○
2	自動車リサイクル法	車両管理	○
3	フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律	第一種特定製品の管理	○

（２）違反、訴訟等

当事業所に適用される環境関連法規の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。また、関係機関等からの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

９．代表者による全体評価と見直し・指示の結果

当社では、エコアクション２１の取組みを開始して１８年が経過し、これまでに環境負荷を低減する為の様々な取り組みを実施してきました。取組み開始当初に比べると、取組みによる効果を出すことは難しくなりつつありますが、近年では太陽光パネルの設置や照明器具の LED 化等の設備投資により、一定の効果はでていると考えます。今後も従業員の意識向上を図りながら、持続可能な社会の実現の為に積極的に SDGs の取組みを取り入れ、更なる環境負荷の低減を目指して継続的に取組みを実施してまいります。